

検疫探知犬及びハンドラーの育成施設に関する情報

1. 検疫探知犬の育成施設情報

名称			
所在地			
電話番号		FAX番号	
その他連絡先			
創立年月日			
沿革			
代表者氏名		生年月日	
現住所			
略歴			

従業員数とその各種区分内訳
活動概要
育成実績
育成後の供給先
その他参考となるべき事項

※ 施設に関するパンフレット等の資料がある場合には添付すること。

2.ハンドラー育成施設情報

名称			
所在地			
電話番号		FAX番号	
その他連絡先			
創立年月日			
沿革			
代表者氏名		生年月日	
現住所			
略歴			

従業員数とその各種区分内訳
活動概要
育成実績
育成後の供給先
その他参考となるべき事項

※ 施設に関するパンフレット等の資料がある場合には添付すること。

検疫探知犬及びハンドラーの育成書

1. 検疫探知犬の育成書

検疫探知犬 名称:	性別:	生年月:	年	月
-----------	-----	------	---	---

育成施設名称			
育成期間		連絡先	

トレーナー名			
略歴			
育成実績			

育成スケジュール			
<p>訓練内容を具体的に記載すること。</p>			

2.ハンドラーの育成書

ハンドラー 氏名:			
育成施設名称			
育成期間		連絡先	
トレーナー名			
略歴			
育成実績			
育成スケジュール			
訓練内容を具体的に記載すること。			

3.検疫探知犬とハンドラーの合同訓練

合同訓練の期間 月 日 ~ 月 日	訓練内容を具体的に記載すること。
-------------------------	------------------

4.その他参考となるべき事項

--

馴致訓練及び応用熟達訓練計画

トレーナー名	
略歴	
育成実績	
訓練計画	
馴致訓練 月 日 ~ 月 日	訓練内容を具体的に記載すること。
応用熟達訓練 月 日 ~ 月 日	訓練内容を具体的に記載すること。
その他参考となるべき事項	

検疫探知犬及びハンドリング技術の能力評価基準

検疫探知犬が、正しく探知対象物を嗅ぎ分け、その存在をハンドラーに知らせる能力を満たしているか判断するための定量評価に加え、ハンドリング技術や検疫探知犬に求められる行動などを定性的に評価することとする。

1 定量評価について

(1) 実施方法

- ア 探知対象物又は探知対象物以外の物が収納された容器（箱等であって、収納物が見えないもの）を用い、検疫探知犬が探知対象物を正確に探知できることを確認するものとする。
- イ 収納物は、1つの容器につき1品目ずつとし、容器は、10個ずつ3列に並べる。
- ウ ハンドラーは評価者の指示に従い、検疫探知犬にコートを着せ、順に容器の匂いを嗅がせることにより探知を行う。なお、探知は1列当たり1往復とし、同じ容器のにおいを嗅がせるのは2回までとする。
- エ ハンドラーは、検疫探知犬が反応した容器に探知対象物が収容されていると判断した場合、検疫探知犬を座らせ、挙手すると共にどの容器に検疫探知犬が反応したのか、評価者へ申告する。
- オ 評価者は、ハンドラーへ正誤を告げる。
- カ 正解（座らせた容器に探知対象物が収納されている場合）の場合、ハンドラーは検疫探知犬にリワードを与え、探知を継続する。不正解（座らせた容器に探知対象物以外の物が収納されている場合）の場合、リワードを与えずに探知を継続する。
- キ ハンドラーは、探知を終了する場合、評価者へ終了することを宣言し、検疫探知犬のコートを外す。
- ク 同様の手法による探知を、1頭ずつ3回実施する。

(2) 採点方法

以下の2つの方法により、100点からの減点方式として採点し、双方の平均を最終的な得点とする。採点の結果、80点以上でなければならない。

- ア 探知対象物の入った容器について、探知できなかった場合、1容器につき11点の減点とする。また、正しくない告知（引っ搔く、噛む、吠える等）をした場合は2点の減点とする。
- イ 探知対象物以外の物が入った容器に検疫探知犬が座った場合、1容器につき5点の減点とする。

2 定性評価について

定量的評価におけるハンドリング内容を（1）に挙げる項目に沿って評価する。

（1）評価項目

ア 検疫探知犬との良好な関係

- ・信頼関係、服従関係が構築できているか。
- ・ハンドラーは、検疫探知犬の性格や特性を把握し、検疫探知犬の意欲を高めるような行動ができるか。

イ 適切なハンドリング技術

- ・検疫探知犬の自主性を尊重しつつ、適切なコントロールができる。
- ・検疫探知犬とハンドラーが一体となって、円滑に探知ができる。
- ・リワードを効果的に使用できる。
- ・検疫探知犬がやるべき行動を適切に促すことができる。

ウ 検疫探知犬としての適切な行動

- ・探知行動に集中し、熱心に探知することができる。
- ・探知対象物を見つけた際には、明瞭に座ることができる。
- ・容器を嚙んだり、引っ掻いたりしない。
- ・探知中に無駄吠えや粗相をしない。

（2）評価方法

ア 「良くできている」、「概ねできている」、「改善を要する」の3段階評価とする。

イ 評価の客観性を持たせるため、評価者は動物検疫所職員3名とし、少なくとも1名はハンドラー資格を持つ職員とする。

ウ 評価者の会議により、評価項目毎に評価を決定する。

エ 「改善を要する」と判断された場合は、仕様書第8条（2）に基づく措置をとる。

様式 1

業 務 実 施 計 画 書

年 月 日

農林水産省動物検疫所（ 管理責任者名を記載 ）長 殿

申請者

所 属

氏 名

印

（ 委託業務名を記載 ）仕様書に基づき、下記のとおり業務実施計画書を提出します。

記

1 業 務 名 （ 委託業務名を記載 ）

2 実施期間 年 月 日から
年 月 日まで

3 実施事項

（1）業務内容

1日のスケジュール、探知方法等詳細に記載すること。別紙で記載し添付可能。

（2）実施者氏名

実施者全員の氏名を記載すること。

（3）業務期間中の予定

探知計画予定日数等を記載すること。

（4）その他連絡事項

かかりつけ獣医師名、年2回の定期健康診断の受診予定月、狂犬病・その他ワクチン接種月日等犬別に連絡すべき事項を記載すること。

注：その他必要な場合には、別様とすること。

様式 2

業 務 実 施 変 更 計 画 書

年 月 日

農林水産省動物検疫所（ 管理責任者名を記載 ）長 殿

申請者

所 属

氏 名

印

（ 委託業務名を記載 ）仕様書に基づき、下記のとおり業務実施変更計画書を提出します。

記

1 変更事項

（記載要領）

提出した業務実施計画書から変更する箇所を具体的に記載すること。

ハンドラー週間業務報告

報告日	年 月 日 ()							
所属				氏 名				
業務期間	月 日 () から		月 日 () まで		(業務日数		日間)	
業務内容	日 付	対 応 機 数		犬の反応回数		探 知 回 数		
	月 日 ()	便	回	回	回	回		
	月 日 ()	便	回	回	回	回		
	月 日 ()	便	回	回	回	回		
	月 日 ()	便	回	回	回	回		
	月 日 ()	便	回	回	回	回		
	月 日 ()	便	回	回	回	回		
	合計 日間	便	回	回	回	回		
	主な行事							
	実施事項							
所 感								
動物検疫所からの伝達事項 (月 日)			担当者					
<p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応機数、犬の反応回数、探知回数はハンドラーが記憶している数値でかまわない。 ・主な行事は、検疫探知犬業務の見学、取材の他、動物病院の受診等業務以外で実施したことを記載すること ・実施事項は、探知トレーニングの内容、探知業務中の内容を記載すること ・所感は、1週間の業務実施について、反省点、改善が必要と思われることその他、動物検疫所への要望等を記載すること。 								

様式 4

業 務 実 施 報 告 書

年 月 日

農林水産省動物検疫所（ 管理責任者名を記載 ）長 殿 殿

申請者

所 属

氏 名

印

（ 委託業務名を記載 ）仕様書仕様書に基づき、下記のとおり（ 検疫探知犬名を記載 ）号の業務実施報告書を提出します。

記

1 実施期間 年 月 日から
年 月 日まで （ 日間）

2 業務状況

（1）探知業務日数： 日

（2）ハンドラー出勤状況（実施者ごとに記載すること。また、出勤等確認できる業務日報等の写し添付すること。）

氏 名：

出勤日数： 日 欠勤日数： 日

（2）ハンドリング実施日数（実施者ごとに記載すること。）

氏 名： 実施日数： 日

（3）その他業務実施事項（新聞、テレビ等の広報活動業務等を記載）

注：①その他必要な場合には、別様とすること。

②検疫探知犬ごとに作成すること。

③毎月末にとりまとめ、翌月に提出すること。